

博報財団 第11回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名	玉栄(ギョクエイ)
在住国名	中国
所属・役職	内モンゴル大学 教授
招聘回(招聘研究期間)	第11回 (2016年9月1日～2017年8月31日)
受入機関	国立国語研究所
招聘研究テーマ	コーパスを利用した日本語、モンゴル語の韻律特徴の対照研究
研究目的	モンゴル語のアクセントは、音韻論的には弁別的でないといわれているが、音声学的な特徴については研究者によって意見が分かれている。モンゴル語アクセントの音声学的特徴を把握するのはひとつの目的である。日本語の韻律研究はモンゴル語よりはるかに進展しており、優れた研究成果が蓄積されている。本研究では日本語の韻律研究の成果を踏まえながらその研究方法を身に付け、モンゴル語の韻律特徴を把握するように努力する。本研究のもうひとつの目的は、モンゴル人による日本語の習得に役に立つことを目指している。

研究成果概要:

1. 国立国語研究所の前川喜久雄教授のご指導、西川賢哉氏のご協力をいただき、モンゴル語の語アクセントを分析するための音声データベースを構築した。本データベースは国語研究所が開発した「日本語話し言葉コーパス」に準拠したものである。本データベースはCSJ-RDBを参考に、「語」「音節」「音素」「分節音」という、階層関係が認められる4つの単位を設定した上で、相互に関連付ける6つのテーブルを構築した。現在までに内モンゴル出身の3名(男性1名、女性2名)の音声収録されている。収録した資料は音節構造、母音の長短、隣接子音に配慮し、684語用意して、単語単独で1回、2種類のキャリア文に埋め込んで各1回発話してもらい、これを2回繰り返した。

2. 本データベースを使用して予備的な分析を行なった。

本データの女性話者二人の資料を利用して、モンゴル語の2、3、4、5音節語、合計5300単語の分析を行い、暫定的な結果を得た。結果を論文にして報告する。

あわせて母音の無声化現象も分析した。分析結果からは、第一音節に生じるあらゆる母音に無声化の可能性があることと無声化は、母音の前後に無声、有気、破裂、摩擦、破擦子音が生じている音声環境で生じていることの二点が明らかになった。

3. 国立国語研究所の言語資源活用ワークショップで共同研究発表をしました。2017年3月に「モンゴル語アクセント研究のためのデータベース」(玉栄)、2017年9月に「モンゴル語アクセント研究のためのデータベース」(2)(西川)を発表しました。

展望:

- モンゴル語アクセント研究のための音声データベースを使用して研究論文を執筆する。
- 帰国後、上記のデータベースを拡大することを目指す。収録人数を増やし、音声アノテーションを進める予定。
- 国語研との共同研究は継続の予定している。
- 最終的には、研究成果を教育に活かして、モンゴル人母語話者の日本語の習得に貢献したい。